



完成予想CG

**本堂の堂内  
荘厳を新調  
しました。**

線香や灯明を堂外でお供えすることによって、初詣の混雑の解消をはかるとともに、本堂内の各種荘厳を新調しました。

また、新たな気持ちでご参拝ください。

## 賀 春

本年もどうかよろしくお願いたします

◆正月三日間 家内安全新春初詣護摩祈願

随時受所にて申込み 郵便・FAXで予約申込み可。

(後でお札を送ります)

厄災消除、息災健康、心願成就、商売繁昌、病氣平癒  
試験合格 等〔各二千元〕

甘酒接待 (手造り、アルコール分なし)

◆元旦より毎日(通年)

毎日(午前九時～午後四時)。申込随時

御祈祷料：志納(金額はご自由)

## 花情報

如意寺の主たる花「みつばつつじ」  
見頃・・・4月7日～21日頃

境内全体をピンクに染めて見事です。春になると、多くの花木や山野草が咲きます。次の花は、2月末から3月に咲き始め、4月まで咲く花の一部です。紅梅、紅アセビ、山桜、こぶし、日向ミズキ、イカリ草など多数



みつばつつじと本堂



紅アセビ



日向ミズキ



イカリ草

住職、「FMたんご」(79.4MHz)で語る!  
昨年8月から、約1年間、月2回。(10話まで終了)

「ふりちゃんのこのゆびと～まれ」の30分番組の中で約7分。

- 毎月第1金曜日 13時～ (再放送は、次の日曜の朝8時半～)
- 毎月第3金曜日 13時～ (再放送は、次の日曜の朝8時半～)

※電波の関係で聞こえない地域があります。1年間終了後CDにまとめられますので、ご希望があればお聞かせください。

## 春の行事

◆星祭 節分会 甘酒接待

二月三日(土)、四日(日) 申込み随時

厄除、家内安全、商売繁昌(二千元)  
息災健康、心願成就、合格祈願、病氣平癒など (千円)

郵便、FAX等でお申込みいただければ、御祈祷の札をお送りします。厄年の方も、そうでない方も、ぜひお申し込み下さい。御祈祷料はお札送付後で結構です。振替用紙を同封いたします。



◆日切不動尊大祭

四月一日(日) 午前九時から受付開始十時半

厄除、家内安全、商売繁昌、息災健康、心願成就、合格祈願、病氣平癒など

当日、随時、お申し込み下さい。(二千元)

※郵便・FAX・電話による予約申し込みは、初詣・節分の場合と同じです。

午後は、一時半より、住職による「法話」。二時四十五分より「もちまき」。



## おたより (絵手紙でなくても、なんでも結構です)

湖南省 林 和子様

『たより』を読ませていただきました。境内のお花を思い浮かべています。お手入れ大変と思いますが、宜しく。「千日会」の由来、意義がわかりやすく、今度はその思いでお参りしたく思いました。伝統行事は継続が大切です。どうかよろしくお願いたします。

豊岡市 近藤 悦子様

美しいお便りありがとうございます。不思議な巡りあわせ。昨日、友人と二人で湾の周辺をドライブ。仁王様に手を合わせて、町のカフェに参りましたよ。もうアジサイが咲いている頃でしょうね。

※花は、ドライフラワーを張っております。





# 信じることによって、救われる

～仏さまとのかかわりは、人間関係と似ています～

初詣にお詣りになられた皆さま、遠路ご苦労様であります。どうぞ美味しい甘酒で身体を温めてください。

「書初め」の言葉はいろいろありますが、小学校の頃、「あさひ」とか、「陽光」とか、「一陽来復」などと書いた憶えがあります。子どもの頃、母が、「どんな時も、心に太陽を持って人を幸せにすることを一番に考えなさいね」と話してくれたことがありました。太陽の光は、ただ、生命を育てるだけでなく、希望や勇気、幸福感や向上心など、私たちの背中を押してくれる力を秘めています。しかし、仏教的な解釈では、まだ完全とは言えません。なぜかと言いますと、「光あるところに影がある」というように、光の当たる



人がいる一方、いつも影になる人がいるとすれば、これは少し考えないといけません。

仏教の、例えば真言宗では、この広い宇宙の中で最も中心的な存在である仏さまを「大日如来」と呼びます。「日」よりも大きい「大日」は、隅々まで照らすことができます。太陽の不十分な面を補って、さらに大きな力で全世界を救う、「宇宙や“いのち”の根源そのものを表す万能の仏さま」なのです。この大日如来によって、私たちは、日々、見守られ、生かされています。お大師様（弘法大師）のご法号である「南無大師遍照金剛」の“遍照”とは、遍く照らす「大日」を表しています。

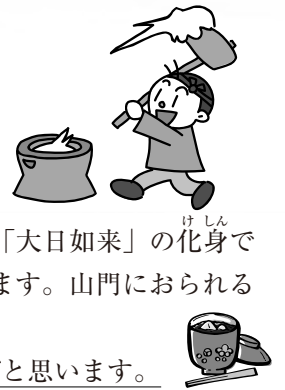
こういうわけですから、光に包まれた世界は本来明るいはずです。そういう世界観を示している仏教も明るいのです。「え、仏教は明るい？ 昨日のお葬式は暗かったよ」って、言う方があるかもしれませんね。しかし、お葬式は暗くても、仏教自体が暗いわけではありません。仏教の教えは、私たちに生きる勇気を与えてくれる、とても明るく前向きな宗教であります。

では、なぜ、仏教は明るいのでしょうか。明るくなければ、世界を救うことができないからです。暗いところも照らし出して、全てを救うと決心されたのが「大日如来」です。浄土系の方は、「阿弥陀如来」、禅宗系の方は、「釈迦如来」だとお考えください。

如意寺におられるさまざまな「如来さま」や「観音さま」も、「お不動さん」もすべて、「大日如来」の化身です。衆生済度（人助け）のため、慈悲の心と強いパワーを持って、いつも走り回っておられます。山門におられる「仁王さん」（金剛力士）は、その仏の世界を守る門番の役割を果たして下さっています。

お寺にお参りされるときには、仏さまをそのような存在と考えてお祈りしていただければと思います。

「信なくば立たず」（論語）は、民とリーダーの関係を述べています。人間関係においても、相手を信じることなくして、自分を信じてもらうことはできません。同じように、仏さまを信じることによって、仏さまからの信と助けを受けることができます。ご利益を授かることもできるでしょう。お寺は癒しの場であると同時に、仏さまとの信頼関係を結ぶ場所でもあります。諸仏に手を合わせる生き方によって、必ずや光の中に救われるものと、私は信じています。どうぞ、佳き年をお迎えください。



## 如意寺の歴史⑧



さて、一部繰り返しになりますが、鎌倉時代後期、伏見天皇は如意寺に深く帰依し勅願寺とされ、正四位行左馬頭藤原定成を勅使として「如意寺」墨書の勅額を下賜されました。庫裡の御守授与所の上に掛けてある「如意寺」の額はそのレプリカです。本物は「京都府丹後郷土資料館」蔵です。平安、鎌倉時代は大いに栄えましたが、応永年間（室町時代：1400年頃）の兵火でその多くを消失しました。応永の乱であるとするなら、守護大名大内義弘が室町幕府（足利氏）に対して起こした反乱であり、近畿一円の寺社も相当な戦禍を受けたようです。当寺も一時荒廃したものと考えられますが、戦国時代（天文：1500年代前半）、大復興事業が行われたと記録にあります。如意寺「家康文書」は戦国末期です。江戸時代元和年間（二代将軍秀忠公の御代）、覺盛上人が如意寺中興一世となり、寺門復興に努力し、三代家光公の世に遷化されています。因みに、現住職は二十二世になります。

江戸時代にも大復興事業が三度行われます。今回は、江戸時代について書きます。

